

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 3	福山市立南小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月6日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が授業や特別活動の各場面で自分の考えていることや自分の頑張っていることを表現する場があり、一人一人が認められている。 児童生徒が主体的に学びに向かうように教師が熱心にサポートしている。 具体的な評価指標を検討し、家庭や地域と連携を図りながら効果的に取り組んでいくとよい。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 友達と話し合ったり学び合ったりすることに楽しさを感じている。 縦割り班活動や委員会活動では、児童生徒の企画立案により異学年交流をすることで、自己肯定感が高まっている。 知識や技能の習得が十分ではなく、特に言葉や数の理解と表現することに課題がある。 	育成する力 資質・能力 課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)
		めざす子ども像(義務教育修了時の姿) <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等 <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に立ち返り、知識技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践し、協議を継続する。 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自校

ミッション 自ら学び考動するこどもを育てる。 ～ 自己調整力・自己指導力の育成 ～	育成する力 資質・能力 「課題を見つける力」【自己決定】 「対話をする力」【コミュニケーション】 「認め合う態度」【思いやり】
学校教育目標 自ら学ぶ子 「よく考える子・思いやりのある子・たくましい子」	めざす子ども像 〈課〉 身の回りの様々な出来事を自分のこととしてとらえ、自分の課題を見つけ、解決に向けて粘り強く取り組むことができる。 〈コ〉 自分の考えを表現し、相手の考えを詳しく聴き交流し合う中で、互いの思考をつなげて深め、よりよい解を創り出すことができる。 〈思〉 自他の良さを認め合い、協力したり支え合ったりしながら活動できる。
現 状 <児童生徒> ・日々の授業をはじめ、運動会や音楽発表会、児童会行事などにおいて、児童がアイデアを出したり判断・決定したりする場を大切にすることで、「授業で、新しいことを知ったり問題を考えたりすることが楽しい」「自分の役割を意識して活動している」という意識が高まっている。 ・音楽発表会での歌声や校歌の合唱、得意な運動の発表など、表現活動を楽しもうとする意欲が高まっている。一方で、自分の考えを積極的に伝えたり、友達の話最後まで聴き受けながら話し合ったりすることができにくい。 ・学年が上がるにつれて、お金の使い方やテレビゲーム・スマホ等の使い方などに課題が見られている。 <授業> ・教職員は、こどもたちの声や考えを活かして学習を深めようとしていたり一人一人に寄り添って学力の定着を図ったりしている。児童も教職員も「何ができるようになったか」という視点で授業を振り返り、確実に学力を付けていくことを目指している。	研究 教科等 国語・算数・理科 主題・内容等 「主体的・対話的で深い学び」の授業の創造 ～探究的な学習のプロセスと学習のゴールを共有する授業づくりを通して～
	めざす授業の姿 ①「主体的な学び」の実現 ・単元や授業の導入において、児童の「なぜ」「どうして」から生まれる課題が設定され、学習の振り返りが次の学習に活かされる授業。 ②「対話的な学び」の実現 ・学習したことを使った考えの説明の場や、互いの考えを最後まで聴いて話し合う場が大切にされている授業。 ③「深い学び」の実現 ・教材研究を通してねらいを明らかにし、児童自身が目標にできる授業。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立南小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力セ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力セ評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	主体的・対話的に学ぶ力を高める。	◎	見直し	一人一人の考えの意味や価値を捉え、活かす授業を創り、学力の定着を図る。	① 学習指導要領に立ち返りながら、児童が主体的に学習に臨めるような教材研究を行う。 ② 核となる問いを明らかにするとともに、児童に具体的なめざす姿を示し、指導と評価の一体化を図る。	① 研究部からの児童アンケートにおいて、肯定的な回答の児童75%以上 ② 学力テスト(4~6年)においての、正答率40%未満、重点単元のテスト(1~3年)においての正答率60%未満の児童を各15%未満	① 児童アンケート「授業では『なぜ?』『どうして?』と考えたり、自分なりの問いをもったりすることができていますか。」他2項目について、肯定的な回答 →80.9% ② <重点単元テスト> 1年:算 6% 2年:算 8% 3年:国 17% <学力テスト> 4年:国 17% 算 8% 5年:国 2% 算 6% 6年:国 15% 算 21%	4	4	① 学習指導要領に立ち返りながら、児童が主体的に学習に臨めるような授業づくりに向けて、素材研究・教材研究を行う。 ② 教員一人一人が授業づくりポートフォリオを十分に活用し、児童の学力の定着を図る。	① 児童アンケート「授業では『なぜ?』『どうして?』と考えたり、自分なりの問いをもったりすることができていますか。」他2項目 → 77.7% ② <重点単元テスト> 1年:算 6% → 2.9% 2年:算 8% → 1.4% 3年:国 17% → 3.1% 4年:国 17% → 0% 算 8% → 0% 5年:国 2% → 0% 算 6% → 2% 6年:国 15% → 4% 算 21% → 4%	4	4	4	① より多くの児童が主体的に学習に臨めるよう、引き続き素材研究・教材研究を行う。素材研究・教材研究に当たっては、それぞれの教員の思いや工夫を大切に、教員自身が楽しんで教材について考えることができる機会を確保する。 ② 学力分析のための研修を職員全体で行い、学校全体の課題を把握する。引き続きポートフォリオを十分に活用し、児童の学力の定着・向上を図る。
1	思いやりの心を持ち、楽しいと思える学校を創る。		新規	主体的・対話的に考動することで、児童の自己効力感を育成する。	① 学級活動、縦割り班活動、学校行事、児童会活動等を通して、自分自身の活動についてふり返りシートを作成し、自己の成長をポートフォリオにする。 ② 児童の振り返りを元に、教職員が、児童の行動に対する評価をしたり一緒に改善策を考えたりする。	① 児童アンケート「学校での活動を通して、成長している所がある」を85%以上 ② 教職員アンケート「学校での様々な活動の中で児童と共にふり返りを行ったり、行動に対する評価をしたりしている」を90%以上	① 児童アンケート「学校での活動を通して、成長している所がある」→91.3% ② 教職員アンケート「学校での様々な活動の中で児童と共にふり返りを行ったり、行動に対する評価をしたりしている」→100%	4	4	① 児童がふり返りシートを記入することで、自分の成長を視覚化することができる。継続してポートフォリオを作成し、児童の自己効力感を育成する。 ② 学年ごとにふり返りシートの形式を変えながら取り組んでいる。今後は、実践事例を交流しながらさらに指導内容を深める。	◎① 児童アンケート「学校での活動を通して、成長している所がある」→ 86.1% ◎② 教職員アンケート「学校での様々な活動の中で児童と共にふり返りを行ったり、行動に対する評価をしたりしている」 → 100%	4	3	4	① 学校全体で行事を中心とした自己のふり返りを行うことで、自身の成長を認識しやすくなっている。来年度も継続して活動を続けていくことで、自己効力感を高めさせる。 ② 教職員が意識して取組を進めることができた。今後は、児童のふり返りシートの内容を交流する機会を設け、児童の成長をより見取れるようにしていく。

2	<p>基本的な生活習慣を身に付け、体力づくりに励む。</p>	見直し	<p>主体的に健康な体づくりに取り組むことができる。</p>	<p>① 体力の向上及び子ども主体の授業づくりのための研修を学期に1回以上行う。</p> <p>② 児童が運動に興味・関心をもてる体育活動(体育リサイタル・長縄大会)を学期に1回以上実施する。</p> <p>③ 健康教育(生活習慣・学校保健・学校安全・食育)を充実させるための研修を学期に1回以上行う。</p>	<p>①・② 児童アンケート「体育が楽しい」(子ども主体の授業づくり・体育活動)を85%以上</p> <p>③ ・児童アンケート「規則正しい生活を送っている」「健康で安全な学校生活を送っている」を80%以上</p> <p>③ 保護者アンケート「我が子は規則正しい生活を送っている」を80%以上</p>	<p>①・② 児童アンケート「体育が楽しい」(子ども主体の授業づくり・体育活動) →87.3%</p> <p>③ ・児童アンケート「規則正しい生活を送っている」87.3% 「健康で安全な学校生活を送っている」 →89.5%</p> <p>③ 保護者アンケート「我が子は規則正しい生活を送っている」 →79.3%</p>	3	3	<p>①・② 外部講師による教職員研修を行い、専門性を高める授業づくり及び授業実践を行う。</p> <p>② 体育科で身に付けた力をアウトプットする場とし、体育科の学習と体育活動を関連付ける。</p> <p>③ 保護者が我が子について課題と感じている項目に関する内容の研修を行う。その項目を児童に開示し、児童と共に課題解決に向かう。</p>	<p>①・② 児童アンケート「体育が楽しい」(子ども主体の授業づくり・体育活動) → 91.9%</p> <p>□①・② 保健主事による体育科授業研究の実施</p> <p>◎③ 児童アンケート「規則正しい生活を送っている」 → 82.5%</p> <p>◎③ 保護者アンケート「我が子は規則正しい生活を送っている」 → 71.9%</p>	4	3	3	<p>① 児童アンケートの質問内容を変え、体育科の授業改善やその改善が反映される内容にする。</p> <p>② カリキュラム・マップと関連させ、体育科の資質能力が発揮される体育活動へと授業改善を図る。</p> <p>③ 「規則正しい」についての具体化を図り、保健部で設定した明確な数値目標の達成に向けて取り組むを進めていく。</p>
4	<p>教育公務員としての自覚を持ち、笑顔と元気で子ども達と向き合える教職員になる。</p>	見直し	<p>○地域、保護者が「安心できる」と言える学校を創る。</p>	<p>① 児童の学びの足跡を保護者に見てもらったり、児童の学びの姿を様々な形で発信したりする。</p> <p>② 勤務時間内に教職員が授業づくりにあてることができる時間の確保を図る。</p>	<p>① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」を85%以上</p> <p>① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」を80%以上</p> <p>② 月2回以上の教材研究や授業観察・実践交流にあてる時間の設定</p> <p>② 教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」を80%以上</p>	<p>① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」 →88.8%</p> <p>① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」→75.0%</p> <p>① 保護者アンケートへの回答率 →75.1% (前年度→54.9%)</p> <p>② 教材研究や授業研修だけでなく、素材研究の視点も加えて交流を行った。</p> <p>② 教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」→66.6%</p>	3	3	<p>① 今後も、保護者アンケートの回答率を高めるために、メール配信・HP・学校たより・学年通信等を活用して保護者への周知を徹底する。</p> <p>② 毎週木曜日を時程変更日に設定し、放課後の時間を確保する。</p> <p>② 業務改善に関わるアイデア例を定期的に配布し、業務の効率化を図る。</p>	<p>◎① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わせることができる」 → 87.8%</p> <p>◎① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの様子が変わってくる」 → 76.5%</p> <p>◎① 保護者アンケートへの回答率 → 90%</p> <p>◎② 教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」 → 77%</p> <p>□② ・教材研究・素材研究にあてる時間の確保 ・毎週木曜日の時程変更 ・業務改善に関わる資料の定期的な配付</p>	4	3	3	<p>① 継続して、メール配信・HP・学校たより・学年通信・クラスルームを活用して、児童の学びの姿等を発信していく。</p> <p>② 毎週木曜日の時程変更で、放課後や研修の時間を継続して確保していく。</p> <p>② 業務改善に関わる資料を定期的に配付したり、統合型校務支援システムでの操作等についての周知を徹底したりしていく。</p>

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。